2017　InterRidge-Japan 連絡会

日時　2017 年 5 月 24 日

場所　幕張メッセ国際展示場サイト７　会議室 7-2

出席者　松野、富士原、戸塚、木下、益田、石橋、藤井、奥村、野木、Guk, 山中、土岐、島、山崎、熊谷、浅田、沖野

議事メモ

1．国際状況および日本の対応

- フランスオフィス（CO-Chair: Jerome Dyment, Nadir LeBris）が 1 年の空白を経て稼働開始。コーティネーター就任。オフィスの任期は 1 年繰り延べになる可能性大。
- Principal は仏・中・英の 3 国、レギュラーが日米独を含む 8 カ国、Corresponding が 20 カ国
- WG および PD 募集がかかっている。
- 次回 StCom は 7 月にパリ

- 日本の StCom 委員は、富士原さんの任期が 2016 年で終了し、今年から川口慎介さん（JAMSTEC）にお願いすることを承認。任期 2017-2020.
- パリ StCom については、川口さんが無理そうであれば富士原さんと相談する。
- 2017 年 3 月に、AORI$2500, JAMSTEC$2500 を日本の 2016 年度予算で支払った。フランスオフィスが 2016 年は分担金を受け取らないということなので、これは 2017 年会費として扱われている。従来のように請求書がくるだけではなく、事前に 1 年ごとにフランスオフィスとの間で契約書の署名が必要。オフィスからは、できれば事務責任者の署名がよいが研究者でも可、との連絡があり、JAMSTEC は事務方で、AORI は沖野が署名している。

2. 国内活動

- 大海研共同利用を使った研究集会を開催する。「海洋リソスフェアの蛇紋岩化作用と物理・化学・生物プロセス～InterRidge-Japan 研究集会~」幹事は藤井（NIPR）,針金（AIST）,奥村（JAMSTEC)。日程

を協議し、 11/27-28 で決定。

- 今秋、白鳳丸 3 カ年公募の予定なので、インド洋・南大洋等の遠方の航海応募の準備が必要。

3. 情報交換：海域調整等に関する事例

- 他国鉱区の調査（中央インド洋海嶺）：海洋法上は（＋ISA の解釈でも）他国鉱区の科学的な調査について通告等の義務はないが、2016 年の白鳳丸・よこすかの航海では、外務省から韓国に事前通知をすることが求められ、通知をした。黙示の了解で、調査は予定通り実施。
- 台湾境界（沖縄トラフ熱水系関係）：台湾執法線内の調査（第四与那国海丘等）については MSR 申請をしていないが、昨年の調査で台湾から外交ルートで抗議がきたため、外務省・文科省ともかなり慎重。執法線の出入り時刻について、予定と船からの随時報告が求められている。
- チリ領海：みらい航海(チリ海嶺沈み込み周辺)で過去 2 回の航海では認められてきたチリ内水・領海内の調査の許可が下りない。

4. 情報交換：韓国船 ISABU の状況

- 本格的な運航が始まる。予算申請と一体化しているため競争が激しく、

固体地球科学関係のプロポーザルは通らなかった。

- 中央インド洋海嶺に関しては、韓国鉱区が設定されているため毎年必ず航海があり（学術枠ではなく）、piggy back プログラムとして学術提案は歓迎される。毎年決まっているので、長期観測設置回収などには良い。

5. 情報交換：神戸大・深江丸による実習

- 深江丸に観測機器等を整備し、研究教育目的に利用できるようになった。実習を行うので、ぜひ学生の参加を。
- 9 月末（今年は 9 月 25 日～28 日）に瀬戸内海に主に学部生(院生も可)の実習を行う。船は 1 泊 2 日で、海底地形・サイドスキャンソナー探査と反射法地震探査もしくは ROV(SHINDAI 2K)。前後に陸での講義、演習がついて全体で 3 泊 4 日。既にいくつかの大学とは単位化する相談ができている。
- 10 月と 3 月の喜界カルデラの研究航海時にも、主に院生対象の実習を組む。1 週間程度。
- 研究航海については、当面は公募にしない。

☆会場費寄付金：14 名 14,000 円